

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第14週の発生動向

□ トピックス

・インフルエンザ（定点報告対象疾患）：インフルエンザの定点当たり報告数が9.8と前週の約0.7倍に減少し、今シーズン流行期に入って初めて流行警報レベル終息基準値（10.0）を下回りました（詳細後述）。

□ 全数報告の感染症（14週までに新たに届出のあったもの）

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核5例。3類感染症：報告なし。4類感染症：報告なし。
5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症1例、後天性免疫不全症候群1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・病名	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	男	無症状病原体保有者	—
			80歳代	男	無症状病原体保有者	—
			90歳代	女	肺結核	咳
		都城	60歳代	男	無症状病原体保有者	—
			80歳代	男	肺結核	咳、痰、食欲低下
5類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	宮崎市	60歳代	男	—	腸炎、一時的下痢
	後天性免疫不全症候群	高鍋	40歳代	男	無症候性キャリア	—

□ 定点把握の対象となる5類感染症

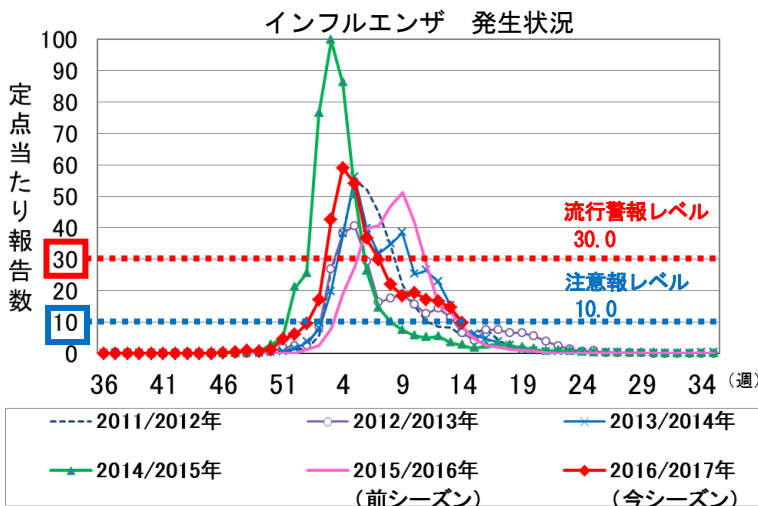
・定点医療機関からの報告総数は1,161人（定点当たり29.9）で、前週比96%とほぼ横ばいであった。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性角結膜炎で、減少した主な疾患はインフルエンザと手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

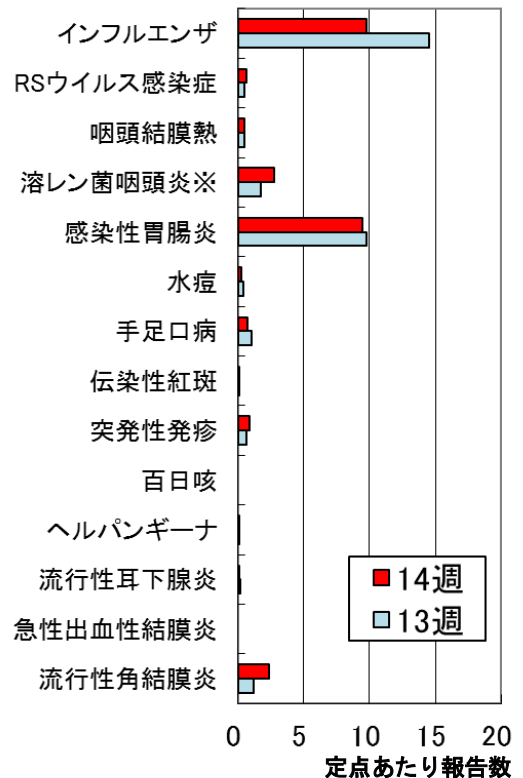
【インフルエンザ】

報告数は576人(9.8)で、前週比67%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (7.1)の約1.4倍であった。小林(16.0)、日南(12.8)、宮崎市(12.1)保健所からの報告が多く、年齢別は5~9歳が全体の約3割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値



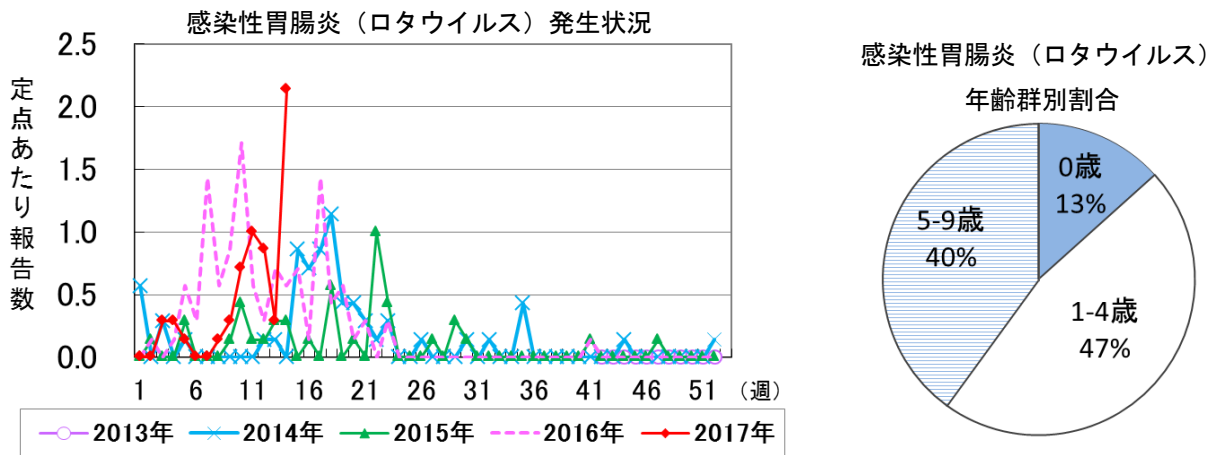
《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：宮崎市保健所から報告があった。0～4歳が1例であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：宮崎市(10例)、延岡(3例)、日向(2例)保健所から報告があった。0～4歳が9例、5～9歳が6例で病原体の群別は不明であった。



★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(12.1)
都城	なし
延岡	なし
日南	インフルエンザ(12.8)
小林	インフルエンザ(16.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

＊流行注意報レベル基準値＊
・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報(衛生環境研究所微生物部 平成29年4月10日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Legionella pneumophila</i> SG3	60歳代	男	2017.03.22	発熱(39.3℃)、肺炎、紅斑、下痢、腎不全	喀痰	2017.03.28
EPEC(OUT:HUT)	—	男	2017.03.23	—	便	2017.04.04
EPEC(OUT:HUT)	—	男	2017.03.23	—	便	2017.04.04
EPEC(OUT:HUT)	—	女	2017.03.27	—	便	2017.04.04

○発熱、肺炎を呈した60代の男性から *Legionella pneumophila* SG3 が分離された。今回の事例は、尿中抗原を検出する市販キットでは陰性であったが、レジオネラ症が疑われたため、当所に喀痰が持ち込まれ菌が分離された。*Legionella pneumophila* には15の血清群があり、また他のレジオネラ属菌によるレジオネラ症も報告されている。尿中抗原陰性であっても、レジオネラ症が疑われる場合には、菌の分離を積極的に行うことが望ましい。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	女	2016.12.20	新生児発熱、39.5℃	便	2017.03.30
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2017.02.06	手足口病、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.03.31
アデノウイルス5型	0～4歳	女	2017.01.14	細菌性髄膜炎、38.7℃、髄膜炎	髄液	2017.04.04
ヒトヘルペスウイルス7	5～9歳	男	2017.01.13	頸部リンパ節腫脹、リンパ節腫脹、咳嗽	咽頭ぬぐい液	2017.04.07
ヒトヘルペスウイルス7	0～4歳	男	2017.02.08	肝機能異常、39.6℃、肝機能障害	咽頭ぬぐい液	2017.04.07
インフルエンザウイルスAH3	50歳代	男	2017.02.16	インフルエンザA型、37.7℃、頭痛、筋肉痛、関節炎、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.04.05
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2017.02.21	インフルエンザA型、38.5℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2017.04.05
インフルエンザウイルスAH3	40歳代	男	2017.02.23	インフルエンザA型、38.3℃、関節痛、筋肉痛(関節炎)、上気道炎(咽頭痛)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.04.05
インフルエンザウイルスAH3	60歳代	女	2017.02.23	インフルエンザA型、38.6℃、咽頭炎	鼻汁	2017.04.05
インフルエンザウイルスB(ビクトリア系統)	0～4歳	男	2017.02.21	インフルエンザB型、38.7℃、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.04.05

○インフルエンザと診断された5名の咽頭ぬぐい液及び鼻汁からインフルエンザウイルスが分離された。本県における今シーズンの検出数をみると、AH3が64件、AH1pdmが3件、B(山形系統)が4件、B(ビクトリア系統)が4件となっている。全国でも同様にAH3の割合が最も多く、次いでB(ビクトリア系統)、AH1pdm、B(山形系統)となっている。定点医療機関当たりの報告数は全国的に減少傾向にあるが、今後も引き続き注意する必要がある。

○髄膜炎の乳児の髄液からアデノウイルス5型が分離された。アデノウイルス5型は1型、3型とともに乳幼児に上気道炎などの呼吸器症状を起こすウイルスである。また、アデノウイルスは小児でよくみられるウイルスで、無症候性の場合もあることから臨床症状は多彩である。

🇯🇵 全国 2017 年第 13 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第13週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	318 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	18 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	6 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	8 例	マラリア	1 例	レジオネラ症	32 例
5類感染症	アメーバ赤痢	13 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	20 例
	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例
	後天性免疫不全症候群	12 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	57 例	水痘（入院例）	1 例
	梅毒	66 例	播種性クリプトコックス症	5 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	麻しん	13 例				

麻しんの報告数は13例で、第1週から第13週までの累積報告数は99例となった。山形県(5例)、東京都、長野県(各3例)、京都府、兵庫県(各1例)から報告があり、第1週から第13週までの累積報告数は、山形県(24例)、三重県(20例)、東京都(13例)が多い。年齢別では20歳代、30歳代が各5例ずつ、10歳代が2例、40歳代が1例であった。

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比97%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

感染性胃腸炎の報告数は17,034人(5.4)で前週比107%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(6.5)の約0.8倍であった。香川県、福岡県(各9.9)、宮崎県(9.8)からの報告が多く、年齢別では1~3歳が全体の約4割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2017年 第14週(4月3日～4月9日)

疾病名		第13週	第14週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	859	576	194	65	58	64	80	48	9	44	14
	定点あたり	14.56	9.76	12.13	6.50	8.29	12.80	16.00	8.00	4.50	7.33	7.00
RSウイルス 感染症	報告数	19	23	7	3		6	4	2		1	
	定点あたり	0.53	0.64	0.70	0.50	0.00	2.00	1.33	0.50	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	19	18	5	2	3	4		2		2	
	定点あたり	0.53	0.50	0.50	0.33	0.75	1.33	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	63	99	33	7	6	14	8	21		3	7
	定点あたり	1.75	2.75	3.30	1.17	1.50	4.67	2.67	5.25	0.00	0.75	7.00
感染性胃腸炎	報告数	352	341	84	84	8	34	45	13	16	39	18
	定点あたり	9.78	9.47	8.40	14.00	2.00	11.33	15.00	3.25	16.00	9.75	18.00
水痘	報告数	15	10	3	3	2			1		1	
	定点あたり	0.42	0.28	0.30	0.50	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	39	27	4	18		1	2	1			1
	定点あたり	1.08	0.75	0.40	3.00	0.00	0.33	0.67	0.25	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	5	3						1		2	
	定点あたり	0.14	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.50	0.00
突発性発しん	報告数	23	32	7	5	5	1	5	2		4	3
	定点あたり	0.64	0.89	0.70	0.83	1.25	0.33	1.67	0.50	0.00	1.00	3.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	3	2		1				1			
	定点あたり	0.08	0.06	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	6	2			1			1			
	定点あたり	0.17	0.06	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	6	12	12								
	定点あたり	1.20	2.40	6.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	2	15	10		3					2	
	定点あたり	0.29	2.14	10.00	0.00	3.00	0.00	0.00	0.00		2.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～14週)

2類感染症	結核	63例(5)				
4類感染症	E型肝炎	1例	つつが虫病	6例	レジオネラ症	2例
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例(1)	急性脳炎	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例
5類感染症	後天性免疫不全症候群	4例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	10例
	梅毒	5例	破傷風	1例		

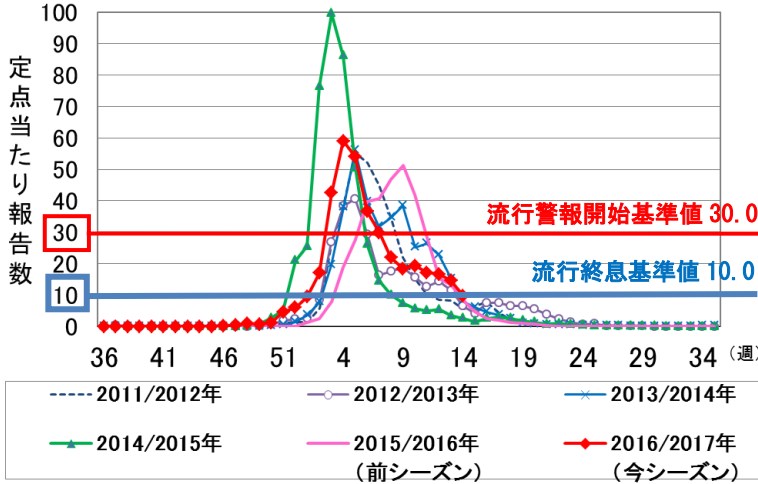
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報《県内第14週、全国第13週（再掲）》

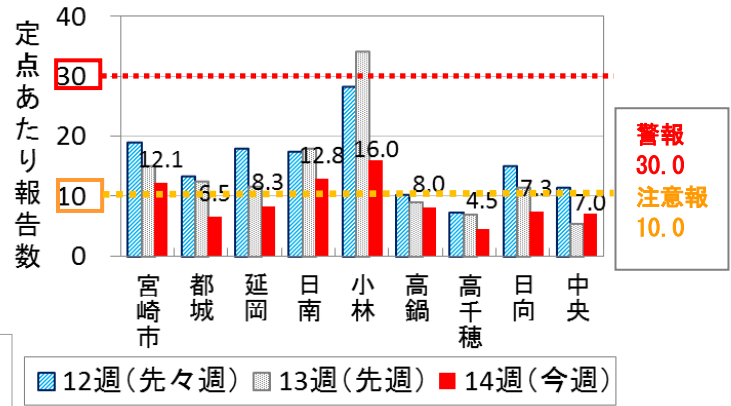
□ 県内第14週インフルエンザ発生動向

2017年4月3日～4月9日までの1週間で576人（定点あたり9.8）の報告があった。前週の約0.7倍と減少し、例年同時期の定点あたり平均値*（7.1）の約1.4倍であった（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の25%、5-9歳が30%、10-14歳が12%、15-19歳が2%、20-59歳が26%、60歳以上が5%を占めた。（図3）

（図1）インフルエンザ発生状況



（図2）インフルエンザ保健所別推移（3週分）

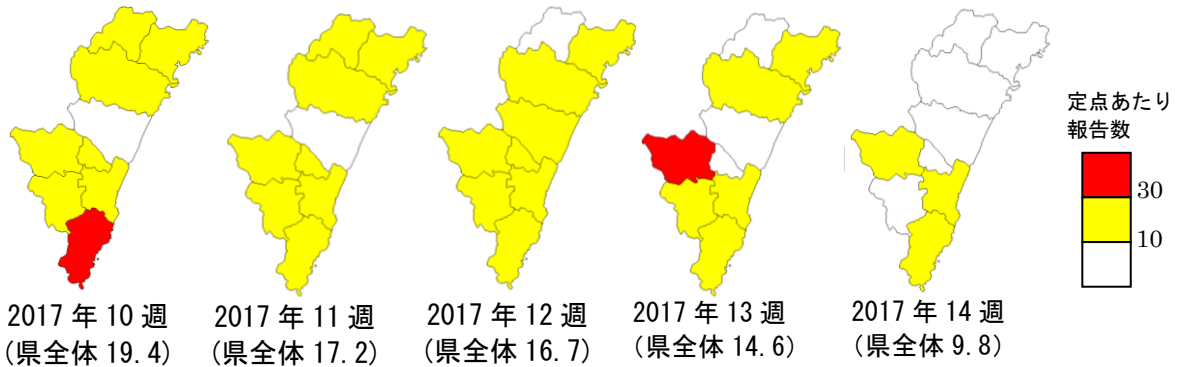


（図3）年齢群別割合の推移（2017年第10週～第14週）

週	10週	11週	12週	13週	14週
10週	1,142人	1,013人	985人	859人	576人
割合	24%	21%	17%	23%	25%
割合	31%	32%	34%	36%	30%
割合	16%	17%	20%	15%	12%
割合	5%	5%	5%	3%	2%
割合	18%	17%	17%	18%	26%
割合	6%	8%	7%	5%	5%

□ 5歳未満 ■ 5～9歳 ▨ 10～14歳 ■ 15～19歳 □ 20～59歳 ■ 60歳以上

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2017年第10週～第14週



□ 全国第13週インフルエンザ発生動向

2017年3月27日～4月2日までの1週間で33,608人（6.8）で前週比88%と減少した。長崎県（15.6）、宮崎県（14.6）、沖縄県（12.9）からの報告が多い。年齢別では5歳未満が全体の21%、5-9歳が28%、10-14歳が14%、15-19歳が4%、20-59歳が24%、60歳以上が9%であった。